

第三者意見



一般社団法人
日本コンプライアンス&ガバナンス研究所
代表理事/会長、日本経営倫理学会常任理事、
駿河台大学名誉教授・博士（経営学）

水尾 順一 氏

略歴：(株)資生堂を経て駿河台大学に移籍、経済経営学部教授、経済研究所長を歴任、この間東京工業大学大学院特任教授、ロンドン大学客員研究員等を兼任し、2018年3月末退職、現在に至る。(株)ダイセル社外監査役。著書「サステイナブル・カンパニー」(株)宣伝会議など多数

▶ 高く評価できる点

事業と一体化したCSRが当レポートにて積極的に「見える化」されています。

建設事業や製造・販売事業などに代表される同社がめざす事業活動は、インフラ基盤の充実のみならず、資源の再利用や2030年に向けた温室効果ガス削減など環境問題の解決に結びついています。加えて、社内での取り組みに視線を向ければ、経営の根幹ともなるコンプライアンスやコーポレート・ガバナンスはもちろんのこと、ダイバーシティ&インクルージョンや働き方改革など多様なワークスタイルの実現による組織の活性化に向けた取り組みも伺えます。当レポートにより、「わたしたちは 確かなものづくりを通して 豊かな社会の実現に貢献します」という企業理念の実現にむけた活動が、十分に開示されています。

また、その過程においては、日本社会が抱える就業者の高齢化による労働力確保の困難性があり、特に建設業界においてはこのことが顕著で、近年重要な経営課題となっていることも指摘されています。この問題に対

して、同社はICT (Information and Communication Technology: 情報通信技術) を活用した新技術を開発、現場に導入することで、人材不足や現場の業務効率化・生産性向上を図っています。その取り組みが特集「路面自動マーキングロボット」「Nコレ・メジャー」にて、先端技術の活用による業務改善の好事例として紹介されており、秀逸な報告書になっています。

▶ 今後に期待する点

従業員が「めざせる、できる、SDGs」により、全員参加で進めるSDGsの見える化を期待します。

SDGs活動では、吉川代表取締役社長の巻頭言にもあります『当社は「持続可能な社会の実現」に向け、これからも積極的にSDGsに貢献していきたいと考えております』が、今後の取り組みの求心力になると思います。

ついては、全従業員がSDGsを自分事としてとらえ、「めざせる、できる、SDGs」を宣言して、各自の活動に目標を定めて取り込んでいくことがそのポイントになります。従業員が定めた各自の目標の一部を次年度のレポートにて、たとえば見開き2ページにまとめて掲載することで、全従業員が一丸となって進める様子を社内外のステークホルダーに開示でき、同社に対するレピュテーションが高まることが期待できます。

SDGsのような、個人の倫理観や心情が大きく左右する取り組みは、仲間たちの参加意識を高め、理解と納得によるお互いの「共感」を得ることで、全社活動としてドライブがかかります。社内に共感が広がることで、社外のステークホルダーの共感を呼び、善循環的に「共感の輪」が拡大することで、持続可能な発展に結びつくことを、心から祈念しています。

ご意見をいただいて

水尾先生には、当社の取り組みについて貴重なご意見をいただきお礼申し上げます。SDGsにつきましては、2020年度より本格的な取り組みを開始しました。先生のご意見の通り、SDGsを従業員一人ひとりが自分のこととして捉え、当事者意識をもって取り組んでいくことが2030年の目標達成につながっていきます。そのためには、「共感の輪」を拡大していくよう、SDGsについて、解りやすく伝えていくことを継続してまいります。2020年6月に国土交通省道路局が公表した道路政策ビジョン「2040年、道路の景色が変わる」においても、『道路は人々の幸せを実現するためにある』が基本コンセプトとなっています。当社の事業活動の中心である道路建設を通して、人々の幸せを実現し、持続可能な社会の実現に貢献していく所存です。

今後とも、CSRレポートを通して、企業理念の実現に向けた活動を積極的に開示し、SDGs達成のための取り組みをPDCAで推進し、社会の一員として期待される当社の役割を果たしてまいります。



管理本部 総務部長
櫻井 佳彦